

令和 6 年度 第 3 回 相談支援部会 グループワーク記録

	① 相談員の不足	② 体制整備	③ 人材育成
現状・困り事・大変な要因	<p>【当事者目線】</p> <ul style="list-style-type: none">・委託事業所が少ない。・相談事業所に行っても相談員が不在。・相談事業所に電話しても繋がらない。回線が埋まっている。・本来相談員さんにいくべきでは？の相談が親の会スタッフにきている。 <p>【事業所の困りごと】</p> <ul style="list-style-type: none">・兼務の職員が多い。・相談支援専門員になりたい人が少ない。・法人内で“相談”が重視されていない。・他の担当者（部署）の人にわかってもらえない・キャリアデザイン（キャリアアップにならない）・成人の相談件数もパンクしている。既存ケースの対応だけでも業務時間が足りない。・ケースが多く、深く考えることが出来ない。・支援学校は 2 人で相談を行っているが 200 名の生徒＋校外の相談を含めると人不足。・受けもつ人数が多い。・相談員さんの気持ちが「こなす」ことに向いてしまっていることがある。必要な支援に時間がかけられない。・相談内容が複雑で難しく、個人の技量では支援しづらい。 <p>【制度上等の困りごと】</p> <ul style="list-style-type: none">・報酬単価が低い⇒お給料が低い・相談事業で採算を取る事を諦めている。・福祉職の求職者の不足。	<p>【役割・周知】</p> <ul style="list-style-type: none">・何をどこに相談できるか分かりにくい。・相談業務の周知不足。・計画相談じゃなくても、相談支援に繋がることが大切（セルフプランでも）。・相談事業の認知が保護者の中に広まっておらず担任から聞くことが多い（ワンクッションあるため時間がかかる）。・公立小学校（幼・保）にあまり知られていないため連携が取りにくい。・校内の相談⇒計画相談支援事業所の方々はいいの다가それ以外はどこに繋げるのか。・「計画相談」でない相談できない？と思われている方が多い。・どこまでが相談の役割かわからない⇒子供家庭センター？保健所？放デイ？学校？他… <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none">・連携不足 児童期～成人、成人～高齢・相談の内容（具体的に）を共有し解決していくシステム（体制）作りがまだまだ「児相、子ども家庭センター、相談支援事業所との繋がり」管理職も含めて。・行政の協力体制。 <p>【支援等】</p> <ul style="list-style-type: none">・個人情報の取扱いの壁。・印・署名をもらうことで時間がかかる。・サービス管理責任者との連携。・計画書が役立っていない気がする⇒個別支援計画の方が詳しい、書類が沢山で保護者が管理し切れていない。・業務過多、ケースや会議が増えてもマンパワーは変わらない。・セルフだとなんとなく責められる。・ついでに相談できないのでハードルが高い。・支援が必要なのに拒否されている方等へのアウトリーチが弱い。	<p>【育成及び研修等、研修機会について】</p> <ul style="list-style-type: none">・多忙で研修を受ける余裕がない。・研修に行く時間的な余裕がない。・育てる余裕がない。・相談員が疲弊している⇒バーンアウト・業務時間が無限で負担が大きい、やりたがらない。・相談に関する悩みをわかちあうことがなかなか出来ない⇒場所がない？みんな忙しい。・様々な事例を検討することが難しい。相談員は皆それぞれ忙しそう。 <p>【現状・背景】</p> <ul style="list-style-type: none">・困難事例に時間・人手を取られてしまう。・複雑な背景を抱えるケースが増えている。・相談内容が多岐に渡りすぎてしまう。・学校の相談は様々であり、福祉・教育・卒業後（進路含む）など多岐に渡る。・元々教員なので福祉の専門知識がないため対応が難しい事がよくある。・ライフスタイルの変化でやめてしまいがち。・難しそうと感じてしまう人が多い。・やりがいがわかりづらい。・相談員の位置付けが低い。 →相談員とは…相談員の仕事が周知・理解されていない。・相談員が周知されていないから研修に参加する人が少ない。又は、研修後に続けようと思わない。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・相談員が直接支援までやりきれない。 →障害者団体連絡会などと連携して相談の層を 2 重にしては？民生委員でも可。・相談員になった後の研修が欲しい。・児童×障害相談などの研修があまり（ほぼ）ない。・外部研修の機会・予算がない。
	<ul style="list-style-type: none">・報酬の大幅アップ！・魅力が伝わると良い。・やりたい人がなれる仕事にする。・「相談員」を花形職に戻したい！・業務内容の改善⇒受付人数、件数・事業所の数が増える。・学校に相談専門職を置いて欲しい。	<ul style="list-style-type: none">・相談員の処遇改善が欲しい。・相談員という仕事を周知する。・「ケアマネ」のような取っ付きやすい名称を作る・行政間の連携 障がい福祉課×児童（教育）・高齢・生保・子ども家庭センター・保育・「セルフプランの作り方」講習会を開催する。・事業所毎の収益計画への個別コンサルが欲しい⇒「儲からないからやらない」を無くしたい。・委託と指定は別事業所にして欲しい。・事業所（サービスの選択肢）を増やす（相談支援も含む）。・地区ごとの相談支援体制を作り（13 地区包括支援センターのように）。・地区ごとの支援機関と繋がる。・連携しやすい体制づくり。・事務量の軽減（デジタル印・書式の統一）。	<ul style="list-style-type: none">・相談員を憧れの職業にしたい！！・自由に研修に参加できる体制作り。・研修費の補助があると良いな。・研修の種類を増やす。・研修情報の集約と周知共有。・スーパービジョン体制が整う。

具体的な取組 これをやってみよう！	<ul style="list-style-type: none">・ 名称変更（イメージアップ）・ 計画相談の意義についての講習会（当事者・相談支援員対象）・ 制度説明会を開催しよう（学校も含めて、CW）・ 報酬を取りやすいモニタリング →必要な人に必要な支援を提供。	<ul style="list-style-type: none">・ セルフプランが必要な当事者への作り方講習会。・ 事業所毎の収益計画への個別コンサル（法人経営層向け）。・ 地区ごとの相談支援体制構築（包括支援センター13 箇所のように）。・ 子どもの相談支援には児発管だけではなく子どもセンターや学校とも繋がるべき。・ デジタル印（署名）可・ 書式の統一。	<ul style="list-style-type: none">・ 業務（手続き）のマニュアル的なものがない。・ 相談（委託等）幅が広すぎる。知識が広範囲に及ぶ。・ 相談支援専門員研修後のリクルート。・ 研修の種類（分野別）を増やす。・ 基幹がスーパービジョンを整える。
----------------------	--	--	---